（様式―１）信濃川下流工事施工研究発表会

1	表題（課題）名	航路浚渫工に伴う、荒天時土砂堆積に対する対策。	
2	工事（業務）名	有明浜工区離岸堤補修外工事	
3	受注者名	小柳建設株式会社	
4	工　　期	令和　5　年　5　月　20　日 ～ 令和　5　年　12　月　28　日	
5	担当技術者(立場)名	現場代理人	（　のざわ　てつじ　） 野澤　徹司
6	担当主任監督（調査）員	関屋出張所長	
7	課題区分名	①ＤＸ・ＩＣＴ　　　　（　――――――――――――――）	
8	工事(業務)概要	本工事は、浸食される海岸を保全する離岸堤（D17、D19）の補修を行ない、洗堀による堤長不足を改善する工事です。	

9 【施工における　課題・問題点　等】

　ブロック積込、据付に先立ちクレーン付台船の航路深度確保に伴う浚渫工において、漁港内荒天による浚渫完了箇所の堆積が予想された。

　浚渫範囲は新川漁港操業中の船舶航路であり浚渫船稼働時の航路確保が困難な場合がある。

10 【実　施　内　容】

　浚渫工開始に伴い、施工履歴データを用いたICT施工にて施工を行い、オペレータへの操作支援を行い3次元座標にてリアルタイムで所得し出来形を面的に把握し出来形数量を用意に算出できるよう対応を行った。

　浚渫作業時操業船の航行が困難な場合があるため、事前に新川漁港との打合せを行い操業船との連絡を行い施工を行った。

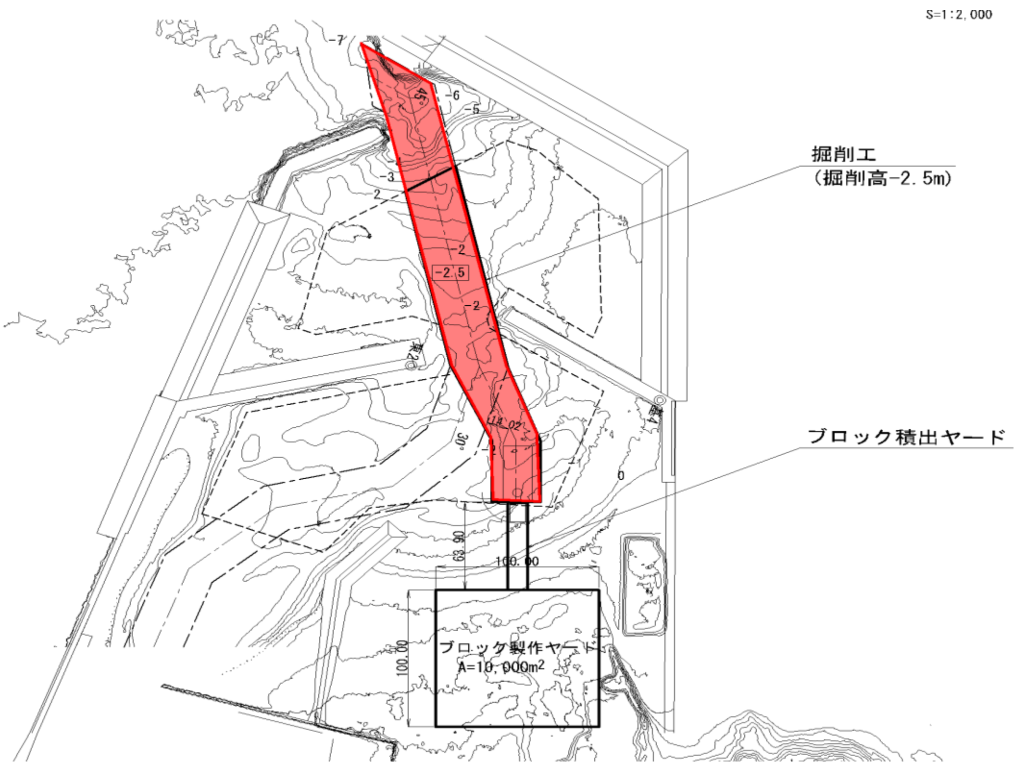
11 【実　施　結　果】

浚渫完了箇所の計測の手間を削減し、荒天後の計測にて土砂堆積の有無を適時行いクレーン付台船の航行に支障のある堆積箇所を選定し再度浚渫を行い、クレーン付台船の航行に支障なく作業を行うことができた。

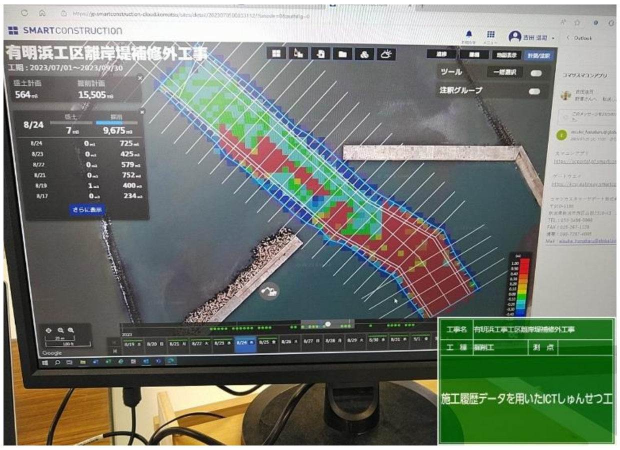
　浚渫作業時操業船の航行が困難な場合、操業船との連絡を直接行い出入港時間には作業を一時中断し操業船の妨げにならぬよう作業を行った。

（様式—２）

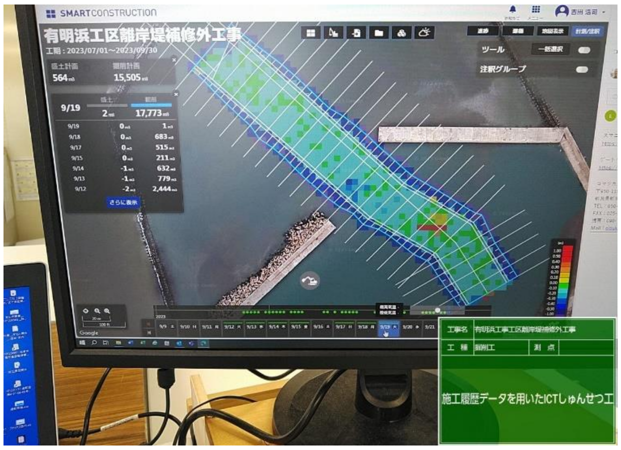
【実　施　内　容　等】



現場事務所内にて職員による確



施工中画面アップ



施工完了時画面アップ